

## 2025実戦攻略 「情報 I」 大学入学共通テスト問題集

京都精華大学教授 鹿野 利春

### 1. はじめに

「情報 I」の授業が始まって2年目になり、来年度は「情報 I」の大学入学共通テストが実施される。大学入試センターからは、サンプル問題や試作問題が公表されているが、過去問はない。このような中で「情報 I」の受験対策をどのように進めればよいのか。その1つの答えが、この問題集である。作成にあたっては、次の3つのことを意識した。

- ・大学入学共通テストの目的に沿って作成
- ・3年生の4月からという学習時期に合った内容
- ・生徒が主体的に学習を進められる工夫

結論としては、内容はスタンダードで質の高いもの、知識だけでなく思考力も重視した問題に詳しい解答・解説をつけ、必要に応じてWebや動画でも補足するといった形になる。

### 2. 大学入学共通テストの目的に沿って作成

1つ目は、大学入学共通テストの目的に沿って作成することである。大学入学共通テストの目的は「大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握すること」と、大学入試センターのWebページに明記されている。

大学では、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AIに関する教育が文理を問わず導入されつつある。このような状況からも「大学教育を受けるために必要な能力」として、「情報 I」が大学入学共通テストに入り、国立大学協会が受験科目として採用したことは、自然な流れと言えるだろう。

基礎的な学習の達成とは、「情報 I」の学習指

導要領に定められた資質・能力を身に付けていることである。「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「ネットワークと情報活用」の内容について、知識だけでなく思考力も重視した問題に対応できることが必要になる。

我々は、サンプル問題や試作問題を参考としながらも、「情報 I」の学習指導要領の内容が大学入試で出題されるとすればどのような形になるか、身近な事象を取り扱った問題にするにはどうするかなどを考え抜いて問題を作成した。

これは、高校生が大学教育に向けて身に付けるべき情報活用能力を考えることであり、「情報 I」の大学入試問題として、あるべき姿を作っていく作業でもあったと思う。おそらく、大学入試センターでも同様のことが行われていると推測する。問題を出す側と、その対策をする側に分かれているが、思いは同じではないだろうか。

### 3. 3年生の4月からという学習時期に合った内容

2つ目は、3年生の4月からという受験に直面した時期に適した内容とすることである。多くの生徒は1年生あるいは2年生で「情報 I」を学ぶ際に、学習ノートのような教材で基礎的な内容を学習している。また、簡単な問題集などで「情報 I」の入試に向けた学習を開始している生徒もいるだろう。3年生になれば、模擬試験にも「情報 I」が入ってくる。

これらに対応するためには、学習指導要領に沿ったスタンダードな構成にする必要がある。我々は、全体を次のような章に分けた。

- 1章 情報社会の問題解決
- 2章 コミュニケーションと情報デザイン
- 3章 コンピュータとプログラミング

#### 4章 情報通信ネットワークとデータの活用 融合問題 模擬問題

1章から4章までは学習指導要領の内容に合わせてることによって、どの教科書を使っても違和感なく問題集に取り組めるようにした。内容は、3年生の春からの学習にふさわしいものとして、知識だけでなく思考力等も問うものにした。1章から4章の問題に順に取り組みむことによって、「情報I」の模擬試験への対応も容易になるだろう。

大学入試センターが公開した試作問題などでは、二次元バーコードの問題で「情報デザイン」と「問題の発見・解決」を融合したものが見られた。これ以外にも、「データの活用」と「プログラミング」の融合なども考えられる。このような問題への対応として「融合問題」を準備した。これらを踏まえた最後の仕上げは、大学入学共通テストの本試験を想定したものにする必要があるの、「模擬問題」になっている。

内容の特徴としては、プログラミング言語を大学入試センターから公開されている「試作問題」や「サンプル問題」、及び「共通テスト用プログラム表記の例示」に合わせたことが挙げられる。

PythonやJavaScriptなどの実用言語でプログラミングの実践力を伸ばすことも必要であるが、3年の4月からという時期であれば、大学入学共通テストの形式に慣れておくことが優先すると考えた。

その他の特徴としては、今までに学習した事項の「まとめ」を1～4章の冒頭2ページ程度と最小限にして、その分を問題に割り振ったことが挙げられる。これは、基礎的事項を学び直すには教科書や学習ノートを用い、本問題集は実力養成に特化するという割り切りである。そういった点では、非常に性格のはっきりした問題集になったと考えている。

#### 4. 生徒が主体的に学習を進められる工夫

3つ目は、生徒が主体的に学習を進められる工

夫である。これの必要性について考えてみよう。

情報科を担当する教員は、各学校で1名ないし数名であり、他教科に比べて圧倒的に少ない。しかし、国立大学の進学を目指す生徒は、全員「情報I」が受験科目になる。また、情報科以外で数学や理科も兼任している教員は、それらの受験指導も必要になってくる。さらに、情報関係の校務は増えることはあっても減ることはないだろう。

これらの意味するところは、生徒が「情報I」の質問に行っても教員が対応できない、放課後の補習なども他教科のようにはできない可能性が考えられるということである。

生徒が「情報I」の受験勉強を進めるためには、生徒が主体的に学習を進められる工夫が必要になる。すでに販売している「ベストフィット情報I」は、本体より別冊解答のページ数が多く、一部の問題にはQRコードでオンラインのコンテンツも提供しており、生徒が自主的に学習を進めやすいようにしている。「実戦攻略「情報I」大学入学共通テスト問題集」も基本的に同じ方針で作成を進めている。

#### 5. 令和6年4月からの学習

令和6年4月は、新学習指導要領で学習した全日制の高校生の最終学年になる。大学入試では、すべての教科で今までより思考力等が重視され、「情報I」も大学入学共通テストに加わる。生徒の力が遺憾なく発揮されるためには、それに応じた体制を整え、教材を吟味し、主体的に学習を進めてもらう必要がある。一言で言えば「戦略」が大切である。これは、今年中には決めて学校全体で共有するようしておくべきである。

2025実戦攻略  
「情報I」大学入学共通テスト問題集  
B5判 192ページ（別冊208ページ予定）  
定価910円（税込）  
978-4-407-36330-2 2024年2月発行予定



※各ページに表示または記載されている各社の会社名、サービス名及び製品名等は、各社の登録商標または商標です。

小誌バックナンバーは、実教Webサイトの情報科ページ(<https://www.jikkyo.co.jp/highschool/jouhou/>)よりダウンロードできます。